

三重県東日本大震災支援本部 第20回本部員会議 概要

- 1 開催日時：平成27年7月14日（月）9:00～9:30
- 2 開催場所：県庁3階プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり
（●説明、☆意見）

1 各部署の取組について

- (1) 平成26年度までの取組
- (2) 平成27年度の取組予定

●防災対策総務課長 資料1・2により説明

2 現地派遣職員による活動報告について

- (1) 平成26年度の報告概要

●防災対策総務課長 資料3により説明

- (2) 活動報告

「平成26年度 宮城県への派遣における報告」

●県土整備部防災砂防課 山下 昌之 技師 資料4により説明

●水谷県土整備部長

三重県では経験できない、被災直後の地元調整等を経験してもらった。派遣期間中にも3回状況説明にきてもらったり、災害復旧研修の講師もしてもらった。県土整備部全体で知見を活かしていきたい。

☆渡邊危機管理統括監

事業費ベースの完了率が4%であり、現場はもがいているように感じたがどうか。

●山下技師

河川・海岸復旧工事については、どれだけ早急に着手し、地元に対してもいち早く復興の形をあらわすのが大切ということで、派遣職員の皆さんも発注業務を行っていた。平成27・28年度が工事の最盛期であり、勝負の年だと感じた。

☆植田副知事

粘り強い構造は三重県にも取り入れることができる。力を入れてほしい。

☆知事

個人的感覚で良いので、市町の復興のスピードにばらつきがあるという話だが、その原因は何か。そもそもの被害の状況に違いがあるからばらつきがあるのは当然であるが、それだけではなくてばらつきがあると感じている原因はあるか。

●山下技師

地域によって復旧する被災のレベルが違う。海岸復旧においては、担当した松島等においては特別名勝地域であるため、手続きが大変であった。

一番感じたのは、各市町においても若手の土木職員が少ないということ。若手技師の底上げが今後の三重県においても課題であると感じた。

☆知事

- ・ 震災から4年4か月が経過したが、被災地の復興は道半ばである。被災地の皆さんに長く寄り添っていく必要があるので、長く続けていける交流等もふくめて、各部局で知恵を出しあって取り組んでほしい。
- ・ 県内には、約440名の避難者がいらっしゃることを常に意識し、引き続き必要な支援情報が確実に届くようにしていくこと。
- ・ 平成27年度も6名の職員を派遣しているので、各部局は側面からしっかりとサポートをしていくこと。